



そらふいあ

2018年12月発行
 淡海フィランソロピーネット・滋賀県社会福祉協議会
 〒525-0072 滋賀県草津市笠山7-8-138
 TEL: 077-567-3924、FAX: 077-567-5160
 ホームページ: http://www.shigashakyo.jp/oumi_p_net/index.html

Vol.
31

2018年度企業・団体の社会貢献活動セミナーレポート 淡海フィランソロピーネットの会員個々の持つ強みを生かし、 子どもの支援に繋げる活動へ

2018年7月9日に企業・団体の社会貢献活動セミナー「淡海で実践!子どもを真ん中においた地域づくり」を開催しました。本年度淡海フィランソロピーネット(以下、Pネット)が掲げた事業計画の一つ、「子どもの笑顔はぐくみプロジェクト」の応援と会員の参画促進を具現化するため、プロジェクトを知り、次世代を担う子ども・若者への支援を探る機会として開催しました。セミナーではプロジェクト概要の説明と、プロジェ

クトの主な事業である「子ども食堂」をテーマに、その実践と企業の支援内容について報告がなされました。今回は、セミナーの内容をまとめてご紹介します。



▲企業・団体の社会貢献活動や子ども食堂に関心を持つ約70人が参加

広がる実践と支援の輪 「子どもの笑顔はぐくみプロジェクト」

「子どもを真ん中に置いた地域づくりの実践

ひたすらなるつながり 「子どもの笑顔はぐくみプロジェクト」

社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会 事務局次長 谷口 郁美

子どもを真ん中に置くことで生まれる繋がり

滋賀に暮らす一人ひとり、誰もが「おめでとう」と誕生を祝福され「ありがとう」と看取られるまで、ふだんのくらしのしあわせ(ふくし)がもてる社会を実現するための道筋として、滋賀県社会福祉協議会が事務局となり子どもを真ん中においた地域づくりをさらにすすめるための応援団をつくる「子どもの笑顔

はぐくみプロジェクト」を2017年8月に発足しました。

プロジェクトは「遊ぶ・学べる

淡海子ども食堂」「フリースペース」「児童養護施設等で暮らす子どもたちの社会への架け橋づくり」が子どもの笑顔をはぐくむ取り組みの3つの柱です。これらの事業は滋賀の子どもたちへのあたたかい眼差しの共感の中、実践が広がると共に、プロジェクトの趣旨に賛同し、モノ、スペース、お金、体験の提供等を行う「子どもの笑顔スポンサー」に登録いただいた企業、団体、個人の方々による支援も広がってきました。

子どもを真ん中におくことで繋がったこの“縁”は一時的なものではなく、永き未来へと紡いでいけるよう、引き続き皆様のご協力をお願いします。



登壇者

北居理恵氏

スクールソーシャルワーカー
湖北子ども食堂「Liaison(リエゾン)」代表

西塚哲夫氏

淡海フィランソロピーネット 事務局幹事
株式会社平和堂 総務部総務課 課長

北村衣江氏

淡海フィランソロピーネット 企業会員
大阪ガス株式会社 近畿圏部滋賀地域共創チーム 係長



実践報告1 「いただきます」からつながる幸せ～子ども食堂実践報告～

湖北子ども食堂「Liaison(リエゾン)」代表 北居 理恵氏

子どもの笑顔のために、私ができること

米原市で実施している湖北子ども食堂「Liaison(リエゾン)」です。私は現在、スクールソーシャルワーカーという仕事と並行して開催しており、月に2回が精一杯ですが、ここまで約2年半、多くの方のご協力をいただきながら続けることができました。

リエゾンは黄色の旗を目印に、自宅近くの農機具倉庫を改装した所で行っています。元々、ご近所さんや仕事仲間が集まる場として使っていたのですが、当時大阪府寝屋川市で深夜徘徊をしていた中学生が殺害される事件が起き、地域で子どもたちを守るために自分も何かできないかと考え始めたことや、遊びに訪ねてくるようになった子ども達の笑顔に背中を押されたことがきっかけで、子ども食堂を始めることを決めました。

第2水曜日は個別対応・お試し体験デーとして少人数で行い、第4水曜日は誰でも参加できる地域交流の場として毎回30人程度で行っており、顔のわかる繋がりづくりをめざしています。法政大学教授の湯浅誠先生のカテゴリーによると、第2水曜日はケア型、第4水曜日は共生型ということになります。

だれもが“心地よい”と思える居場所に

子ども食堂の持ちうる機能は実に多様で、県内98食堂^(※)さんにはそれぞれに理念や方法があると思

ますが、共通点はすべての子どもに“幸せ”を感じてもらいたいという思いではないでしょうか。

私が子ども食堂をやっている良かったなと思うことは、まず、年齢や性別の枠

を超えて子ども同士がふれあい、地域の絆が深まること、子ども自身が心地よく過ごすことで元気になってくれること、そして子どもたちの成長を、保護者さんや学校の先生方と共有できることです。保護者さん同士でお話をしてもらえ場所にもなりました。

また、ボランティアさんの協力による体験活動や、テレビ番組の収録など、日常にない体験もさせてもらえました。こうした種々の活動は、毎月発行している「Liaison(リエゾン)通信」を通じて、地域の皆さまに知ってもらえるよう取り組んでいます。



▲北居さんによる子ども食堂の実践報告

これからも、地域と共に

一方で課題もあります。資金作りもその一つで、様々な助成金に応募していますが、なかなか採用はしてもらえません。また、安心・安全への配慮は重要で、食品衛生やアレルギー対策はもちろん、元気いっぱい走り回る子どもの危険を回避する工夫や、見守りのできるスタッフの確保も必要です。

こうした中、活動が徐々に地域で認知されはじめ、民生委員・児童委員の方々や自治会の協力を得られたり、地元農家さんが農産物を分けてくださったりなど、心強い後押しをいただけるようになってきました。「子どもの笑顔はぐくみプロジェクト」のスポンサー様からの商品券やお米の提供なども、大変ありがたいです。

今後の展望としては、これから先、今の子どもたちが中学生、高校生へと成長していく過程で、しんどさを感じたときに気軽に立ち寄ってもらえる場所として存在できるよう、食堂の「継続」をめざしたいです。

また、どの地域においても、たとえば生活に困難を抱えていたり何らかのサポートが必要だったりする子どもたちが、みんなそれぞれ近所の「子ども食堂」

に通えるよう、学校や福祉機関との連携がスムーズに行われるようになると思います。そのためには「子ども食堂」の機能や意義を広く知っていただき、信頼してもらえる場所となっていくことが必要で、スクールソーシャルワーカーとし



▲子ども食堂「Liaison (リエゾン)」でご飯を頼る子どもたち

ても担うべき役割と考えています。子ども食堂同士の繋がりや他の社会資源との連携も大切にしながら、地域の子どもたちを支えていきたいと思っています。

実践報告2 「平和堂の子ども食堂支援」

株式会社平和堂 総務部総務課 課長 西塚 哲夫氏

広がる子ども食堂、地域に寄り添った支援を

子ども食堂と出会ったのは昨年のもので、県内で広がりはじめた当時、平和堂各店舗へ、地域の子ども食堂実施団体や社会福祉協議会から、運営への支援を求める相談がありました。当社としても子ども食堂へ関心があり、何らかの支援を検討していましたが、滋賀県内にあるすべての食堂への公平な支援の在り方に考えを巡らせていたところ、滋賀県社会福祉協議会が事務局となり、子ども食堂をはじめとする子どもを真ん中においた地域づくりの総合的な支援の窓口を担う「子どもの笑顔はぐくみプロジェクト」が発足。正に渡り舟だと感じ、スポンサー第1号として名乗りを上げることになったのです。

未来ある子どもたちのために、 支援の輪を広げたい

「食堂」である以上、当社としては安定的に食材を

調達できるようサポートする必要があると考えましたが、子ども食堂ごとに必要な食材の種類や数、開催頻度が違います。そこで県内74店舗を展開する平和堂の強みを生かし、従来よりご利用いただいている商品券に、「子ども食堂サポート」スタンプを押した特別な商品券を発行。プロジェクトを通じてすべての子ども食堂に提供し、必要な食材や物品を自由に選んでいただこうと考えました。通常の商品券と違いを作ることで、これを見た従業員にも子ども食堂を身近に感じてもらいたいという想いも込めています。

継続的に商品券を提供するために、有料化したレジ袋の収益金も活用しています。買い物されるお客様の約10%は有料レジ袋を購入され、その収益は滋



2 子ども食堂支援方法

<サポート方法>

モノでサポート…県内各店を活かし、食材提供することでサポートする。

食材提供の問題点・課題

- ・子ども食堂により必要な食材が異なる。
- ・必要品の要望の取りまとめが大変。(種類・量・時期)
- ・平和堂の店舗の受け渡し方法も難しい。

平和堂商品券を子ども食堂支援券として提供し、各子ども食堂の近くの平和堂店舗で必要な食材等を自由選んでもらう。

年2回(半期に1回)、1食堂当りの配付金額を決め、継続的に支援する。

商品券に専用スタンプを押印

各店の社員に利用者が子ども食堂を支援されている方だと分かるようにしています



▲平和堂が取り組む子ども食堂支援の方法

賀県との協定で環境保全または地域社会に還元することになっており、この一部を財源としました。

また、県内の各店舗で募金活動も開始しました。お客様に子ども食堂を周知すること、そして子ども食堂へのお手伝いをしたいけどなかなか行動できなかった人でも気軽に参加してもらえるようにと、店頭で多くの方の善意を集めています。

を更に応援できればと考えています。

当社は食料品という「モノ」の提供でサポートしておりますが、子どもの笑顔はぐくみプロジェクトには、ボランティアや場所の提供など様々なサポートができる仕組みがあります。未来ある子どもたちへの支援の輪が広がっていくことを願い、皆さまもぜひ、活動を検討されてみてはいかがでしょうか。

実践報告3 『“いただきます”で育もう』大阪ガスの食育活動』

大阪ガス株式会社 近畿圏部滋賀地域共創チーム 係長 北村 衣江氏

「食」の在り方と企業としての役割

大阪ガスでは次世代教育として、「食育」をはじめ、「エネルギー環境教育」「火育」「防災教室」などの地域貢献活動に取り組んでいます。中でも食育については、2005年7月15日に食育基本法が施行されたことから、『“いただきます”で育もう』をスローガンに様々な活動を展開して参りました。

2013年には「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録され、世界から注目を浴びていますが、残念ながら日本では若い世代を中心に、家庭での和食離れが進んでいます。そこで大阪ガスでは、世界に誇る日本の食文化を改めて知ってもらおうと、「“和食だし”体験講座」を開始しました。和食の味の決め手となる滋味豊かな本物の“だし”について、味覚体験を

通じて理解を深める体験型のプログラムです。

小学校などへの出張授業では、調理を通じてだしのうま味を感じてもらいながら、昆布やかつお節などの産地や種類、健康への効果なども紹介します。“だしがら”も佃煮にして食べてもらうことで食物繊維・ミネラル等の栄養がバランスよくとれること、ごみの削減に繋がることも伝えています。だしの飲み比べでは「おいしい！」という子どももいれば、恐る恐る口にする子どももいたり、様々な表情を見ることができます。



大阪ガスの食育活動と、 子ども食堂の交差点

こうした食育活動が、「子どもの笑顔はぐくみプロジェクト」でお役に立てればと考え、サポートメニューの一つ、「体験の提供でサポート」するスポンサーとして登録したところ、事務局の滋賀県社会福祉協議会から子ども食堂実践者研修会で講師として参加のご相談をいただきました。手の洗い方や調理器具の消毒方法などの衛生管理、そして栄養満点なメニューをお伝えできればと意気込みましたが、実は多くの苦勞がありました。子ども食堂のメニューは一度に大量に作ることができ、手間をかけずに作れること、そしてなるべく原価を抑えた食材を使用し、野菜を沢山使った子どもが喜ぶメニューであること…配慮すべきことがたくさんありました。

そして迎えた実践者研修当日。「フライパンひとつでできる豆腐とサツマイモの味噌グラタン」「キャベツと豚肉のは

さみ煮」、だしをきかせた「もやしとワカメのかき玉汁」、そしておやつに「チーズ in いも餅」を提案させていただきました。手間や栄養、食材にこだわったこれらのメニュー、子ども食堂実践者の皆様のお役に立つことができましたでしょうか。子ども食堂はご飯を通じた地域の居場所として、人と人が繋がる場所です。企業としても「食育」や「子どもの健康づくり」の視点から協力し続けたいと思っています。

(2) 遊べる・学べる淡海子ども食堂「実践者研修会」

滋賀県社会福祉協議会主催 子ども食堂バックアップ講習に協力

概要

- 日時：2018年2月8日(木) 10:30~14:30
- 場所：県立長寿社会福祉センター ■参加者：28名
- 内容：
 - ・子ども食堂で支援するおいしだい講習
 - ・子ども食堂における衛生管理のポイント
 - ・簡単に作れて子どもが喜ぶメニューの調理実習
 - 旬の野菜(寄付でたくさんもらうもの)を使って子どもの喜ぶメニュー(一度に大量調理可能メニュー)





NHKが取材されています。 p9

▲大阪ガスのプログラムを生かした子ども食堂実践者研修

淡海フィランソロピーネットとして、子どもの笑顔はぐくみプロジェクトを応援します

気付いた大人が寄り添い、アクションを起こす

滋賀県内には98カ所^(※)の子ども食堂があり、それぞれの果たす役割が一律でないが故に、難しさとおもしろさがあるかと思えます。そして、子ども一人ひとりの笑顔には様々な支えがあることを今回のセミナーで確認することができました。

地域には種々の課題があり、目の前で子どもが寂しい想いをしているのであれば、そこに気付いた私たち大人が寄り添って、解決に向けたアクションを起こさなければなりません。私たち企業・団体が“子どもの笑顔はぐくみプロジェクト”に積極的に関わり、それぞれが持つポテンシャルを少しずつでも発

揮すれば、支援の可能性が大きく広がるのではないでしょうか。子ども食堂が地域に永く根付くことで、食堂を巣立った若者がまた地元の子どもの食堂に戻ってお手伝いをし、更には地域を見守るような大人に成長する、そんな社会の実現に想いを馳せ、淡海フィランソロピーネットとして“子どもの笑顔はぐくみプロジェクト”を応援していきたいと思っています。



淡海フィランソロピーネット副運営委員長 西山 実氏

(※) 平成30年11月1日時点では106カ所になっています。

環境と福祉のコラボによる地域社会への貢献

P ネットでは、ペットボトルキャップを回収してプラスチック原料としてリサイクルする活動と、キャップ回収を障害者就労支援の事業とする活動をジョイントした、福祉と環境のコラボレーション事

業に取組み、ここから生まれたリサイクルプランターを県内の事業所や学校で使ってもらう“hana-wa (ハナワ)”プロジェクトに参画しています。

CASE 1 植栽リース事業の利用が障害者の工賃向上に繋がります

作業所で働く障害者の方々が、この活動から生まれたリサイクルプランターに季節に応じた花を植えてお届けする“hana-wa”プロジェクトの植栽リース事業。月に3～4回のメンテナンス付きで、メンテナンス費用は障害者の賃金に反映されます。社会貢献活動の一つとして、事業所の玄関やお客様をもてなす空間にぜひ活用ください。お申込みは、P ネット事務局まで（連絡先は表紙に掲載）

会員企業の利用



▲大阪ガス株式会社



▲旭化成住工株式会社

	プランター1台	プランター3台	プランター6台	プランター11台～20台
価格/月	1,900円	2,800円	5,400円	860円/台

※3カ単位（春：4～6月、夏：7～9月、秋：10月～12月、冬：1月～3月）でのお申込みとなります。 ※通常の水やりのみお申込み者様で行っていただきます。 ※20台以上の価格は応相談。 ※台数によって一部対応できない地域もございます。

CASE 2 リサイクルプランターを長浜市内の40校に贈呈

P ネットでは今年度、第5回チャリティーバザー「カレンダー・手帳」市の収益金を活用し、長浜市内の全40の小中学校・特別支援学校に、ペットボトルキャップリサイクルプランターと花の種、土をセットにした学校用栽培キット計400セットを贈呈しました。

児童らにキャップリサイクルの見える化と、作業所で働く障害者のキャップ回収・分別などリサイクル活動への関わりを知ってもらうことによる、環境学習・福祉学習に貢献する取組みです。



▲長浜市立神照小学校

11月1日には長浜市立神照小学校と滋賀県立長浜養護学校で贈呈式を開催。栽培キットと共にP ネットからのメッセージを届けました。



▲滋賀県立長浜養護学校

メッセージ（一部抜粋）

このプランターを使って、皆さんで大切に綺麗な花を育ててもらうことで、活動に関わる多くの方々の想いを、花の輪のように繋いでくれると嬉しく思います。そして、環境と福祉を想う心をますます持ってもらうことを、私たちは願っています。

P ネット会員一同

豆知識

リサイクルプランターを作るのに必要なキャップ量や、Pネット会員の回収活動は以下のとおりです。

ペットボトルキャップ
1個あたり
重さ
約2.5g



リサイクルプランター
(標準サイズ)
作成に必要な
キャップ数
約476個



キャップを回収
している
Pネット会員
23会員



平成29年度に
Pネット会員事業所
で回収された
キャップ量
約28,990kg



※リサイクルプランターのプラスチック原料の約70%に、リサイクルしたペットボトルキャップを使っています。

CASE 3 花を介してゆきかう心

平成29年度にキャップリサイクルプランターの学校用栽培キットを贈呈した高島市立安曇小学校を訪問し、贈呈から1年が経った学校と児童の様子を伺いました。

プランターは季節に応じて花壇のまわりや正面玄関に設置されています。5～6年生の約10人の緑化ボランティア委員会のメンバーが朝、登校後に水やりなどのお世話を担当。訪れた9月にはサルビアが花を咲かせていました。

委員会はプランターの原料となったペットボトルキャップの回収のほか、アルミ缶のプルタブの回収や、自主的な清掃活動にも取り組んでいるそうです。リサイクルは全校集会や委員長・副委員長会などで呼び掛けていて、「みんなの前で話すのは少し緊張する」とはにかみながらも、活動を引っ張っているのは、委員長の野上のがみとあおぎ睦玖君（6年生）と、副委員長の平井ひらい啓吾君（6年生）。

武田たけだ基裕校長先生は「児童が花を育て、花を育てることで児童も育っていきます。いただいたプランターは1年使っても劣化しない丈夫なもので、次の世代、また次の世代へと引き継いでいきたいと思います」と話されました。



▲武田基裕校長先生



▲高島市立安曇小学校では、リサイクルプランターを使って季節に応じた花を育てています

平井 啓吾君

「水やりを忘れずにして、花と笑顔いっぱい綺麗な学校にしたいです」



野上 睦玖君

「朝、登校して綺麗に咲いた花を見るとみんな楽しい気持ちになってくれると思います。リサイクルは障がい者の方々の仕事にも繋がっているので、頑張ってるので、頑張って集めたいです」

収益が児童の環境・福祉学習に

第6回チャリティバザー 「カレンダー」・「手帳」市を開催します。

会員企業や団体において不要となったカレンダー・手帳を1点100円でチャリティとして販売し、収益金を児童の環境学習や福祉学習に活用することを目的に実施します。

日時：平成31年1月12日(土) 10:00～16:00(予定)
1月13日(日) 10:00～16:00(予定)

場所：フォレオー里山 1階 ノースコート (大津市一里山7丁目1-1)



子どもの笑顔はぐくみプロジェクトを応援

平成30年度総会を開催

平成30年7月9日、大津市のアヤハレークサイドホテルで平成30年度総会を開催しました。平成29年度収支決算案、平成30年度事業計画及び予算案、平成30年度運営委員が原案通り可決されました。これまでの活動に加え、今年度から「子どもの笑顔はぐくみプロジェクト」(事務局：滋賀県社会福祉協議会)を応援していくことが決まりました。

また、平成30年度運営委員長表彰では、本会設立

時より活動の振興・発展に寄与された功績を称え、明智榮一相談役((株)松栄サービス)が特別功労賞を受賞しました。

特別功労賞を受賞した明智相談役(写真左)と大道良夫運営委員長(写真右)▶



日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

平成30年度

ボランティア活動保険

全国200万人加入!!

保険金額

保険金の種類		プラン	Aプラン	Bプラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	1,400万円	
	後遺障害保険金		1,040万円 (限度額)	1,400万円 (限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	10,000円	
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円	100,000円
		外来の手術		32,500円	50,000円
	通院保険金日額		4,000円	6,000円	
	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ			
賠償責任	葬祭費用保険金 (特定感染症)		300万円(限度額)		
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)		

年間保険料(1名あたり)

タイプ	プラン	Aプラン	Bプラン
基本タイプ		350円	510円
天災タイプ(※) (基本タイプ+地震・噴火・津波)		500円	710円

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険 検索

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが(天災危険担保特約条項)、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

保険金をお支払いする主な例



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
 (引受幹事) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
 保険会社) TEL: 03(3349)5137
 受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
 営業時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)
 この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。



- 用紙:適切に管理された森林の木材を利用したFSC®認証用紙
- インキ:環境配慮型インキ(植物油インキ or ノンVOCインキ)
- 印刷:有害な廃液を排出しない水なし印刷